



富山県で最初にできた公立小学校

<校区の概要>

もののふの八十おとめらが汲みまがふ

寺井の上のかたかごの花

(万葉集巻 19-4143)

校区は、万葉歌人、大伴家持が今から 1200 年余り前に越中守として過ごした地であり二上山の麓に広がる万葉の故郷である。越中国庁（国司が政治をとるところ）があったとされる場所には、令和 4 年に国宝に指定された勝興寺があり、歴史と文化に恵まれた環境にある。また、明治時代には、地域の有力な船問屋であり篤志家でもあった藤井能三の尽力により伏木港が北陸で初めて汽船が入港できる港として整備され、近代的な港を抱える町として発展した。

こうした歴史と伝統から、校区の人々は一様に自らの地域に誇りをもち、また、地域で育つ子供達に対しても熱い情熱を注ぐ方が多い。

<学校の概要>

伏木小学校は、本県最初の公立小学校として明治 6 年 2 月 16 日に開校した。学制が公布(明治 5 年)されてわずか半年後のことである。明治 23 年には「校訓」「校歌」「校章」が制定された。

令和 5 年 2 月 16 日には創校 150 周年の記念式典を開催した。祝芸として明治後期敬老会の創設とともに始まった児童による能「高砂」や昭和 20 年代より続く舞「かたかごの花」の上演を行った。

学校創立にあたって、前述した藤井能三の功績は大きく、開校当時から「藤井さんの学校」と呼ばれていたと古い記録にある。現在でも能三の命日にあたる 4 月 20 日には、全校児童による「能三祭」を開催し、能三像に献花した後、「運動場に能三さん」の歌を合唱している。また、古くから続く伝統的な行事が多く、8 月には、大正時代から続く「日の出

会」や全国的にも珍しい海での遠泳大会が行われる。遠泳大会は戦前から続く行事で、以前は臨海学校の最終日にまとめとして行われていた。国分から男岩を回って戻ってくる約 2.5km の遠泳は、高学年児童にとって一種の通過儀礼となっている。

こうした歴史は、創立百周年を記念して発刊された「伏木小学校史」(全 297 頁)に詳しくまとめられている他、本県の代表的な学校沿革史と評されている「伏木小学校沿革史第一巻」(明治 34 年編纂)が現在に伝えられていることなどから、往時の様子を垣間見ることができる。

<地域と共に歩む伏木の教育>

本校の教育活動は、教育熱心な地域に支えられている部分が多い。環境面では、育友会(PTA)の他、同窓会、育友会役員 OB が組織する潮音会などから直接、間接の支援を受けており、民舞「帆柱こし祝唄」、能「高砂」、舞「かたかごの花」の練習など、地域と連携したり指導を受けたりする教育活動も多い。

また長年、俳句づくりに力を入れており、日常のちょっとした心の動きをありのままに詠むことで、豊かな感性が育まれつつある。全国的な俳句コンクールに入賞する児童を毎年多く輩出するとともに、学校賞を受賞することも増えてきた。校舎内に掲示してある全校児童の季節ごとの俳句には、子供らしい瑞々しい感性が溢れている。

校舎北棟 1 階の 4 教室を利用した「ふるさと博物館」や校庭の一角にあり大きな藤井能三像が建つ「能三公園」など、長い歴史をもつ本校ならではの環境を生かした教育活動も盛んであるが、単に歴史や伝統を踏襲するだけでなく、能三が理想とした「新しい時代を切り拓く人材の育成」に向けて、地域と共にさらに充実した教育活動の展開に努めていきたい。